

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人こまつ育成会

令和5年度の運営及び事業所別の活動実績は、以下のとおりです。

## 1 法人全体の概要

### (1) 充実した福祉サービスの提供

本法人は、障害者・児の福祉サービスの充実を目指し、本人・保護者の立場に立ち各種サービスの提供を行ってきた。令和6年4月には何年かぶりとなる大卒、高卒の新入社員を迎えることができたことなど、懸案である労働力確保の面においても若干ではあるが明るいきざしも見えてきた。施設整備の面では、サービスセンターおおぞら新築事業は計画通り進捗している。しかしながら、令和6年能登半島地震により緊急避難的にさくら施設の移転と解体を余儀なくされたことは想定外の事案であった。

サービス提供については、さくら、あしだ、いとまち、おおぞら、ふれんどの5つの拠点において、共同生活援助、相談、障害者就業・生活支援、生活介護、就労継続支援B型、児童発達支援、放課後等デイサービスなど各種の福祉サービスを提供した。

この中で、共同生活援助については、令和5年8月31日にグループホーム桜木を施設の安全面及び職員確保面から苦渋の末にサービスの提供を廃止、また、サービスセンターおおぞらさくら分場についても、能登半島地震によるさくら施設一部損壊に伴い安全面を考慮し、令和6年1月4日から分場をサービスセンターおおぞらに移して営業、3月31日には分場を廃止しサービスセンターおおぞらに集約して営業を行うこととした。

サービス別利用では、相談支援事業所こまつの計画相談支援件数、あしだ、おおぞら、いとまちの延利用人数は増加となり、法人全体で見ても、グループホーム桜木の廃止があったものの、延べ施設利用人数は前年度比約2%弱の増加となった。一方、こまつ障害者就業・生活支援センターでは職員の退職、病休に伴う職員補充が困難な状況が続いたため相談支援件数は約2割弱減となった。

決算では約3,136万円の黒字を確保することができた。

今後も引き続き、人口減少による働き手不足、最低賃金の引上げ、諸物価の高騰など様々な社会的要因により、社会福祉といえども、経営という視点がますます重要になってくると思われる。

### (2) 事業所と実施事業

令和5年度に当法人が運営した事業所で提供した事業は、以下のとおりである。

- ① 拠点さくら
  - ア グループホーム桜木（共同生活援助・定員5人）
  - イ サービスセンターおおぞら さくら分場（生活介護・定員6人）
  - ウ 相談支援事業所こまつ（障がい児・者相談支援）
  - エ こまつ障害者就業・生活支援センター（障害者就業・生活支援、一般就労支援）
- ② 拠点あしだ（生活介護・定員20人、就労継続支援B型・定員20人、日中一時支援）

- ③ 拠点いとまち（児童通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）・定員 10 人、障害児タイムケア、日中一時支援）
- ④ 拠点おおぞら（生活介護・定員 14 人、日中一時支援）
- ⑤ 拠点ふれんど（児童通所支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）・定員 10 人、障害児タイムケア、日中一時支援）

(3) 主な固定資産の取得・廃棄

取得資産	(法人)	土地	月津町ヲ 94 番 12	雑種地	3,483 m <sup>2</sup>
		土地	月津町カ 99 番 4	原野	16 m <sup>2</sup>
		土地	月津町カ 124 番 1	雑種地	106 m <sup>2</sup>
		(あしだ)	トヨタ	ハイエース	
廃棄資産	(さくら)	トヨタ	ラクティス		
	(あしだ)	トヨタ	ハイエース		

(4) 職員の資質向上の取り組み

- ① サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修・・・基礎研修・実践研修受講
- ② 職場内研修（OJT）・・・・・・・全職員を対象とした、外部講師の研修を実施
- ③ 職場外研修（OFF-JT）・・・・・・・石川県社会福祉協議会等の Zoom 研修を受講

(5) 職員数

令和 5 年度末の職員数は、常勤 48 人、非常勤 23 人の計 71 人で、昨年度と比較し 6 人の減である。

## 2 拠点さくら

(1) グループホーム桜木（令和 5 年 8 月 31 日廃止）

① 令和 5 年度の利用状況等（利用登録人数は令和 5 年 8 月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
共同生活援助	5	4	386	153	一日平均 2.5 人

一般就労及び施設に通所している人に対し居住の場を提供し、食事の提供や掃除及び日常生活における相談等の支援を行った。

- ② 苦情受付等           なし
- ③ 利用者の状況       6・7 月中に利用者全員が社会福祉法人南陽園グループホーム「シェアハウス松陽」「三湖台ハイム」へ転居
- ④ その他               8 月のグループホーム利用者なし

(2) こまつ障害者就業・生活支援センター

① 障害者就業・生活支援センター事業

ア 障がい者の相談状況

登録障がい者数	921 人
相談支援件数	2,101 件

職場実習のあっせん件数	19 件
就職件数	44 件
事業主に対する相談支援	740 件

※ 主な相談内容

(1) 求職相談、(2) 職場定着相談、(3) 職場の人間関係、(4) 就業に向けた家庭支援、(5) 生活上の相談、(6) 離職後の再就職の相談 など

イ 関係機関との連絡会議の開催

例年年度末に石川労働局、石川県労働企画課、同障害保健福祉課など各行政機関等と就労支援関係機関連絡会を行っていたが令和6年能登半島地震での事務所建物の被災などの影響があり今年度は中止とした。

ウ 個別支援会議

就労、生活上の課題に対し、行政機関、関係機関等の職員を含めた今後の支援のあり方や支援の役割を確認するための個別支援会議を必要に応じて開催した。

エ 職場定着促進のための在職者の交流活動の実施

在職者交流活動を4回対面にて実施した。

オ 求職者向けのピアサポート活動を1回実施した。

② はたらく障がい者応援事業

就業・生活支援員を配置し、障がい者からの多様な相談に応じた指導・助言その他の援助、事業主に雇用管理に係わる助言、職業準備訓練・職場実習のあっせんを行った。

③ その他事業

南加賀就労支援強化連絡会

南加賀地区の行政、福祉施設、企業によるネットワークを構築し、障がい者の就業に向けての障がい者就職応援セミナー（相談会）の開催や、障がい者の地域理解の向上を目的に「働く障がい者情報誌クローバー」第24号、第25号の発行などを行った。

(3) 相談支援事業所こまつ

① 地域相談支援、計画相談支援、障がい児相談支援

サービス等利用計画作成及び施設や病院から地域生活へ移行するための相談支援及び障がい児相談支援を行った。

ア 地域相談支援 地域移行支援及び地域定着支援・・・地域移行 0件

イ 計画相談支援

サービス等利用計画書の作成・・・・・・・・・・ 251件

サービス等利用計画書のモニタリング・・・・・・・・ 430件

ウ 障がい児相談支援

障害児支援利用計画書の作成・・・・・・・・・・ 50件

障害児支援利用計画書のモニタリング・・・・・・・・ 55件

② 障害者相談支援事業

小松市より障害者相談支援事業を受託し、常勤の相談支援専門員1人を配置し、次の支援を行った。

ア 障がい者の相談状況

実人数	身体障がい	重症心身障がい児・者	知的障がい	精神障がい	発達障がい	高次脳機能障がい	その他	合計
	41	0	183	91	8	0	14	337

上記の障がい者に対し、合計 5,095 件の相談・支援を行った。

イ 主な相談内容

福祉サービスの利用について、各種手続きの支援（障害者手帳の申請、障害者基礎年金の申請等）、通院同行、在宅生活の維持について等

ウ 他機関との連携

他の相談支援事業所、福祉サービス事業所、行政、学校等と連携し、個別支援会議の開催及び参加をした。

エ 障害支援区分の認定調査

小松市からの委託を受け、計 67 件の障害支援区分認定調査を実施した。

オ 相談支援の技術を向上させるため、各種の研修に参加した。

③ 相談支援機能強化事業

ア 小松市から相談支援機能強化事業を受託し、主任相談支援専門員及び相談支援専門員現任研修を修了した職員等を配置して、困難ケースへの対応、指定相談支援事業所等への指導・助言を行った。

イ 小松市障害者自立支援協議会運営への協力

事務局運営に関する協力及び精神障がい者等地域生活支援研究会、医療的ケア児のための関係機関検討部会、テーマ別チーム活動等に参加した。

ウ 地域生活支援拠点事業に参画し、障がい者相談支援センターと連携協力し、総合的・専門的な相談支援の実施を行った。

- ・相談支援体制の強化への取組（連携支援会議への参加 50 回、人材育成他）
- ・地域生活支援拠点事業における 24 時間緊急体制についての対応 1 回

エ 権利擁護、虐待防止に関する取組

(4) サービスセンターおおぞら さくら分場

① 令和 5 年度の利用状況等（利用登録人数は 3 月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
生活介護	6	7	433	240	1 日平均 1.9 人

※ 令和 6 年 1 月 1 日の能登半島地震により、拠点さくらの建物が一部損壊したため、安心安全の観点からさくら分場を拠点おおぞらへ移して営業した。

② 支援の内容

生活 さくら分場では、日常生活上の支援のほかに、お椀のシール貼り作業、月 1 回  
介護 の調理実習、また、健康維持のための散歩と各自の楽しみを探りながら活動した。

- <創作活動> 絵画や画用紙、色紙等を使用し、季節に応じた制作を実施した。
- <機能訓練> 健康維持のため、散歩、ストレッチ体操等を実施した。
- <社会適応訓練> 買い物、調理実習、ドライブ等を実施し、また、会食によりマナーを学んだ。

③ 苦情受付等 なし

- ④ その他 緊急時の対応のため、避難訓練及び消火訓練を行った。

### 3 サービスセンター あしだ

- (1) 令和5年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
生活介護	20	29	5,730	251	1日平均 22.9人
就労継続支援B型	20	20	3,378	251	1日平均 13.5人
日中一時支援	—	3	10		

- (2) 支援の内容

① 生活介護

本人の情緒安定と生活の充実を第一に考え、様々なコミュニケーション手段を利用して信頼関係作りに努めた。排せつ、歯磨き、食事、水分補給などの介助を行いながら趣味の充実や社会参加の意欲を高める為、箱折り作業、角あて、封入作業、チラシのシール貼りなど外部委託作業、缶バッジ制作、手芸、工作など利用者の能力に応じた生産・制作も実施した。その他、歩いて行く買い物・ウォーキング・リズム体操で体力の向上を図り、会食・調理実習・おやつ作りで食の楽しみ、音楽の先生を招き「野に咲く花の会」やお茶会の先生を招き「お茶会」などを行い、個々の感性や個性の充実を図った。

また、施設内での部署間の隔たりを無くす合同行事を数回実施し、共生社会への参加に向けた社会性の育成も図った。

② 就労継続支援B型

就労に必要な知識及び能力の向上のための訓練や支援を行うとともに、就労に向けた情報の提供を行った。また、自立した社会生活をめざすための生活改善の相談や手助けを行った。具体的な施設内での作業は、古紙リサイクルステーションの運営、飲料容器回収作業、箱折り、ハーネス作業を行うなど、多様な作業体験を通して就労に向けた経験の蓄積を行った。なお、コロナ感染も収まり箱折りの注文がコロナ前の状況にもどった。施設外では、ぼかし製造・販売も行っている。

また、月1回のカルチャーデイを設け、文化体験や自ら健康への意識を高め健康管理を行うために体力作りを兼ねたウォーキング、軽スポーツ、ゲーム等を行った。

③ 日中一時支援

利用者のニーズに合わせた余暇を充実させるための活動と支援を行った。

- (3) 苦情受付等 なし

- (4) その他

① 特別支援学校の生徒を実習生として2名、金城大学生の施設内実習を1名受け入れた。

② 緊急時の対応のため、年2回の避難訓練を行った。

#### 4 サービスセンターいとまち

(1) 令和5年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
児童発達支援	10	17	379	287	1日平均1.4人
放課後等デイサービス		27	2,664		1日平均9.3人

(2) 支援の内容

- ① 児童発達支援 親子通所による個別療育を実施した。
- ② 放課後等デイサービス 日常生活の基本動作の指導（手洗い・うがい・トイレトレーニング・衣服の着脱など）、集団生活への適応訓練（あいさつ・コミュニケーション・ルール・生活マナーなど）の療育を行った。また、集団活動では、クッキング・お出かけ・制作・リズム体操・音楽会・誕生会・季節行事・食事会・買い物体験等の活動も行った。

(3) 苦情受付等 なし

(4) その他

- ① 必要に応じて、相談支援専門員、行政機関関係者が集まって支援会議を行った。
- ② 緊急時の対応のため避難訓練（地震・火災）を行った。また、児童がスムーズに行動できるよう日常的な行動理解と指導訓練を繰り返し行った。
- ③ 虐待調査のため、小松市の聞き取り調査を受けた。

#### 5 サービスセンターおおぞら

(1) 令和5年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用回数	営業日数	備考
生活介護	14	16	3,316	251	1日平均13.3人

※2023/6/16（金）～6/20（火）コロナ感染防止対策として閉所

(2) 支援の内容（生活介護）

- ア 相談・援助 普段の様子、気になる行動の対処法、スムーズな通所、調子の悪い利用者の原因や対処法、病気予防のための運動や食事などについての相談、援助を行った。
- イ 指導 調理実習、掃除、お茶当番、入浴、歯みがき、生理時の処理等の指導を行った。
- ウ 教養娯楽 コロナ禍日常生活の充実を図り、情緒の安定を目指すことを目的として、音楽教室、ぼっちゃ・グランドゴルフほかニュースポーツ体験、誕生会（テイクアウト）、おやつ作り、お花見、工作を通じた創作活動等を行った。  
その他初詣、夏祭り、クリスマス会、節分等の季節行事も行った。
- エ 作業指導 箱折り、ペットボトルのラベルはがし、廃紙のシュレッダー等の作業を通じて、仕事の意欲、態度、技術などの指導をした。
- オ 社会生活上 買物、初詣、アート展見学等公共の場でのルール・マナーを学んだ。

## 便宜の供与

カ 送迎サービス 利用者の希望により、自宅と事業所間の送迎サービスを行った。

(3) 苦情受付等 なし

(4) その他 緊急時の対応のため、年2回の避難訓練を行った。

## 6 こども通所センターふれんど

(1) 令和5年度の利用状況等（利用登録人数は3月末現在）

実施事業	定員	利用登録人数	延利用人数	営業日数	備考
児童発達支援	10	7	93	240	1日平均0.4人
放課後等デイサービス		24	1,825		1日平均7.7人

(2) 支援の内容

児童発達支援 親子通所による個別療育を実施した。  
保育所と連携するために、保育所訪問を行った。

放課後等デイサービス 日常生活の基本動作の指導（手洗い・うがい・排せつ・衣服の着脱など）、集団生活への適応訓練（あいさつ・コミュニケーション・ルール・生活マナーなど）の療育を行った。また、集団活動では、クッキング・お出かけ・制作・DVD鑑賞・社会見学・防災体験・誕生会・食事会・買い物体験等の活動も行った。  
その他、ジェイ・バス（株）ボランティアの会と地域交流を行った。

(3) 苦情受付等 なし

(4) その他

- ① 緊急時における対応のため、避難訓練（地震・火災）を2回行った。
- ② 必要に応じて、相談支援専門員、病院、行政機関等関係者が集まったの支援会議に参加した。
- ③ 虐待調査のため、小松市の聞き取り調査を受けた。